

よくわかる

令和4年度当初予算

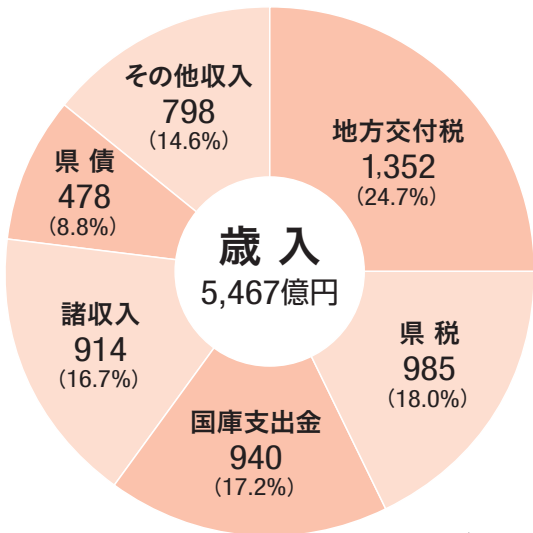
今年4月からの1年間、県はどんなことにいくら使うか。その計画を示した令和4年度当初予算案を2月定例県議会に提出しました。最優先の新型コロナウイルス感染症対策はもちろん、その先の未来へ向けて山梨の可能性を生かしきるため、攻めの予算を組みました。一般会計予算額は過去最大の5467億円。感染症や自然災害などに対する強靱な社会づくりに加え、成長産業や地域資源の高付加価値化、共生社会子育て・教育・介護などの基礎条件を充実させます。そして、コロナ禍を乗り越え、山梨県を前進させる本番の年にしていきます。



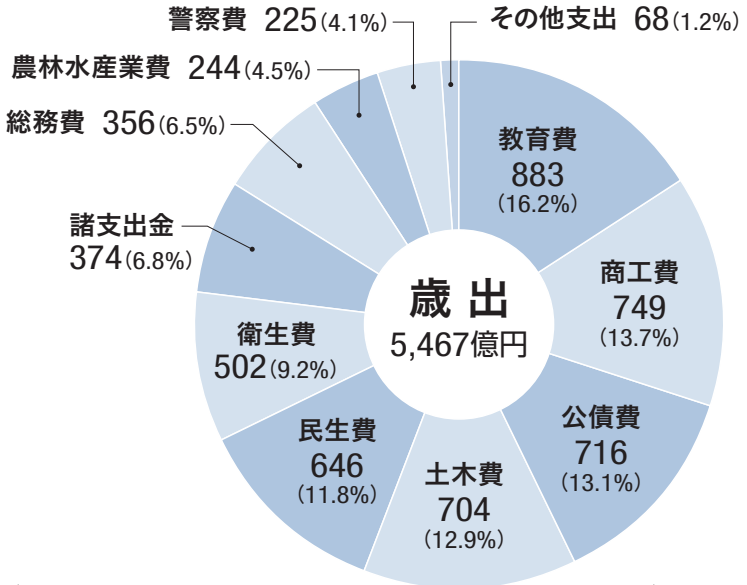
令和4年度当初予算案を説明する長崎知事

新型コロナを乗り越え、その先の未来へ! 「山梨の可能性を生かし切る」攻めの予算

一般会計当初予算額 **5,467億円**



(単位:億円)



(単位:億円)

地方交付税 地方公共団体が一定の行政サービスを提供できるよう、財源が不足する団体に国が配分するお金

県税 県民税や事業税など、県に納められる税金

国庫支出金 特定の事業の財源として国が交付するお金

諸収入 県税の延滞金や預金利子、県からの貸付金の元利償還金など、他の収入科目に含まれない収入

県債 公共施設や道路の整備などの資金を調達するため、県が国や銀行などから長期にわたり借り入れるお金

教育費 県立学校の運営や整備などに使うお金

商工費 商業や工業の振興などに使うお金

公債費 県債の返済に使うお金

土木費 道路の整備や河川の改修などに使うお金

民生費 社会福祉や児童福祉などの事業に使うお金

衛生費 健康増進や疾病予防、環境保全などに使うお金

農林水産業費 農業、林業、水産業の振興などに使うお金

警察費 犯罪や交通事故の防止などに使うお金

予算のポイント

◆新型コロナ対策費は前年比46%アップ

新型コロナウイルス感染症との闘いは今年度も続くことが想定されます。そこで、感染拡大の防止や医療提供体制の確保のため、前年度の464億円を46%上回る677億円(令和3年度2月補正予算を含む)を新型コロナ対策費に充てました。必要な方に必要な医療を届け、皆さんの命と生活・経済を守るため、十分な対策を実施していきます。

新型コロナ対策費 (2月補正含む)

677億円

- 感染拡大防止と医療提供体制の整備 449億円
検査体制の強化・ワクチン接種の促進・病床の確保など
- 県民生活に与える影響の最小化と新しい生活様式への対応 35億円
休業助成金の支給・グリーン・ゾーン認証制度の運営など
- 県内経済の安定化・反転攻勢に向けた対策 193億円
中小企業の事業再構築の支援・やまなしGo Toトラベルの推進など

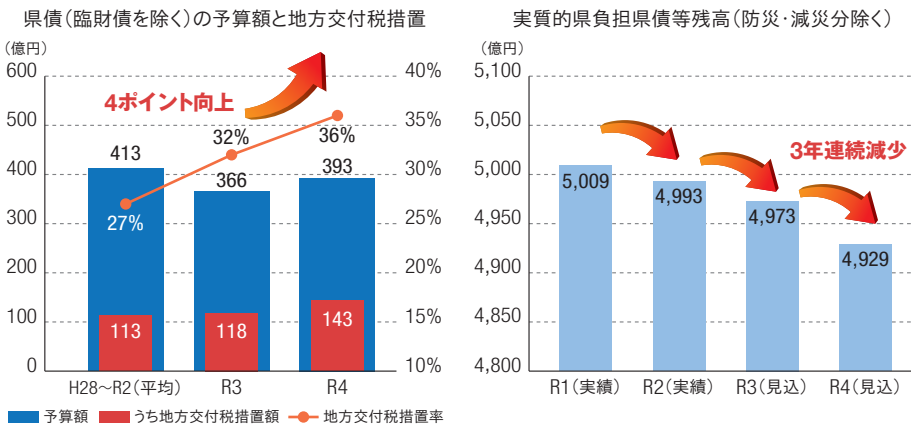
なお、感染力の強いオミクロン株で多くの皆さんが打撃を受けたことを踏まえ、資金繰りに苦しむ事業者の皆さんへの支援はもちろん、学校や保育所で感染が発生したことでお子さんの検査対応のために仕事を休まざるを得なかった「ひとり親世帯」などを素早く支援するため、総額83億円の令和4年度一般会計補正予算案を2月定例県議会に追加提案しました。

◆もしもの出費に備えて「主要3基金」は取り崩しを抑制

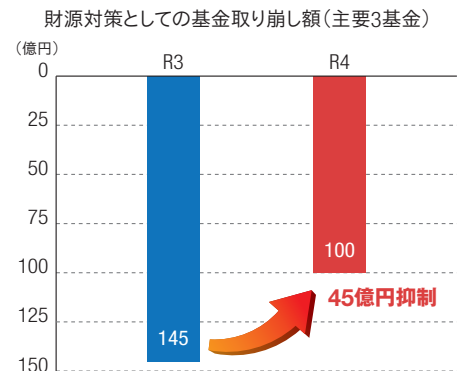
過去最大の予算額になりましたが、財政の健全性はしっかり確保しています。県の負担を最小にする一方で最大の効果を上げられるよう、国の補助金や将来の県の負担が少ない有利な地方債を活用するなどの工夫をしました。その結果、県債(県の借金)予算のうち国が将来負担する割合は4ポイント増え、また実質的に県が負担する県債残高(防災・減災分除く)については3年連続で減りました。

こうした工夫によって、過去最大の予算額としながら主要3基金(県の貯金)から取り崩す額を大幅に抑制しました。基金をしっかりと確保することで、もしもの出費に備える体制を実現しました。

将来の県負担の抑制



基金からの取り崩し額の抑制



◆重点的にお金を使う「3つのK」

3つのKとは「強靱化」「高付加価値化」「基礎条件充実」の頭文字です。感染症や自然災害に強く、付加価値の高い資源や産業を育て、子育て・教育・介護なども充実させる。そして山梨県のあらゆる可能性を開花させていきます。

強靱化の「K」

感染症、自然災害、事故・犯罪などに対する強靱化

高付加価値化の「K」

産業、DX、観光などの高付加価値化

基礎条件充実の「K」

共生社会、子育て、教育、介護などの基礎条件の充実